

平成21年度「津波防災シンポジウム」を開催しました。

津波防災の観点からのまちづくり ～津波はまちを襲う～



宮城県では、昭和35年に来襲したチリ地震津波を契機に、堤防や護岸、防潮水門などの施設整備による津波対策を推進してきました。

平成16年12月26日のインドネシア・スマトラ沖の巨大地震による津波によって、インド洋沿岸諸国に甚大な被害が発生しており、本県においても近い将来、高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震への対策が急務となっています。津波防災における施設整備には膨大な経費と時間を要することから、津波被害の軽減に大きな効果のある津波防災意識の向上を図るための取り組みを行うこととしております。

このようなことから、平成17年よりチリ地震津波が襲った5月を「みやぎ津波防災月間」と定め、官民一体となった様々な取り組みを行い、津波の恐ろしさと、対策について広く住民に理解してもらうことにしました。

今回、「みやぎ津波防災月間」の取り組みの一環として、平成21年5月30日(土)に県庁2階講堂において、「津波防災シンポジウム」を開催しました。

約250名の県民の方々のご参加を頂きました。

シンポジウムの概要は以下のとおりです。

日時:平成21年5月30日(土)午後1時～4時

場所:宮城県庁2階 講堂



伊藤土木部長 開会あいさつ



約250名が参加

シンポジウムの内容

○基調講演「津波防災の観点からのまちづくり」について

日本大学大学院総合科学研究科 首藤 伸夫 教授



シンポジウムの内容

○発表「津波に強いまちづくり」について

気仙沼土木事務所河川班 加茂 謙一



シンポジウムの内容

○発表「仙台湾海岸林における地域の取り組み」について

農林水産部森林整備課 八木 智義



シンポジウムの内容

○発表「仙台市における地域の取り組み」について

仙台市連合町内会長会副会長 片桐 睦男氏



○津波防災・震災対策パネル展示(県庁2階講堂前 ロビー)

